

まずは太陽光発電所2カ所

県内に地域共同発電所を作ろう!

2015年4月現実的課題に



[若林区井土浜の候補地=井土宅地17番]

被災地若林区井土浜と太白区に

NPO法人「きらきら発電・市民共同発電所」準備会は1月9日資源エネルギー庁に対して、平成26年度許可事業として若林区井土浜と太白区柳生の2カ所に太陽光発電所を設置する旨、許可申請を行いました。これは資源エネルギー庁が昨年12月中旬、平成26年度の受け付けを1月途中で取りやめると発表したための対応で、取り急ぎ申請したものです。

NPO立ち上げ申請1月5日提出

NPO法人立ち上げについては、1月5日仙台市市民局市民協働推進部に申請書類を提出。7種類30頁に及ぶ申請書類がなんとか通過。3月下旬には認証の連絡が届くとのことで、4月1日NPO法人成立の見通しがつきました。

準備会の3月までの課題はいかに出資金協力を拡大できるか、その1点にかかっています。

なお準備会ではブログ・ホームページのほか、メールアドレスも準備。インターネットでいつでもつながる条件がそろいました。

出資金目標は3000万円

2カ所の太陽光発電所を設置するためには、資金3000万円が必要です。昨年3カ月間で1700万円の予約を受け付けました。残り1300万円。これを4月まで集め切る必要があります。原発再稼働ストップ、戦争ストップが合言葉。残りの目標達成に向け、頑張りましょう。

現地見学会1月30日午後

資源エネルギー庁に許可申請した2カ所の候補地について、1月30日現地見学会を行うことにしました。会員および関心のある方、是非ご参加ください。現地見学会は毎月行う予定です。

1月30日(金)当日、泉区民は午後2時泉病院友の会集合、ほかの区の方は午後3時長町病院玄関前集合です。

見学会はまず太白区柳生の「もりの子保育園」に行きます。もりの子保育園の屋根には30kw設置の予定です。次に若林区井土浜を見学します。井土浜には50kwの設置申請です。

見学会は午後5時長町病院玄関前で解散です。参加希望者は事務局まで電話又はFAXをお願いします。



NPOきらきら発電・市民共同発電所(準)
〒981-3215 仙台市泉区北中山3-17-12 広幡方
電話 022-379-3777、FAX 022-376-3888
メール=kirakirahatuden@outlook.jp
<http://kirakirahatuden.com/>
News 第3号 2015年1月12日(月)

福島小児甲状腺がん84名

健康調査2巡目で疑い4名

福島県が原発事故時18歳以下を対象に実施している甲状腺検査で、福島県は12月25日甲状腺がん確定者が前回より27名増の84人と発表。84人は全員手術を受けています。

福島県は既に2巡目の検査にはいり、新しく4人の甲状腺がん疑いを見つけたと発表。

悪性度の高いのが福島の特徴

「美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会」発行の「美浜ニュース132号」に、2014年8月時点に発表された57名の甲状腺がんについてふれた文章があります。

その文章で「58名中2名に低分化ガンが見つかっており、低分化ガンはWHO分類では発生頻度0,8%とされるが、福島では58名中2人、つまり3,4%の発生頻度になっており、普通の4,2倍という結果である。そして何より周辺リンパ節転移だけでなく、肺にも遠隔転移が起きている。これはチェルノブイリで発生した甲状腺がんの悪性度に酷似している。この点が心配だ。」と指摘しています。

[前号ニュース記事の訂正]大間原発稼働予定は「平成21年度」ではなく「2021年度」。失礼しました。

泉区寺岡で甲状腺検査

支援対策室いずみ

放射能と向き合う会in泉パークタウンの協力で、日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ主催の甲状腺エコー検査が12月23日泉区寺岡で行われました。対策室いずみ実施する宮城県内のエコー検診はこれが10回目。震災時18歳未満の28人が小児科医寺沢政彦医師の検査を受けました。

中学1年と小学3年の娘の検査で訪れた泉区の母親(38)は「原発事故の影響は小さいとは思っていたけれど、ずっと不安だった。検査を受けられ、大丈夫だと確認できて良かった」と安心した様子。支援対策室いずみの保科隆室長(67)は「放射能を不安に感じる人は潜在的に多い。今後も機会を提供したい」と話した。(河北新報1月25日付)

エコー検診を自分の町でと希望する方は、是非支援対策室いずみ(電話796-5272)へ。

おしゅれで利益を生む節電所

LED導入で節電効果7割超

市民共同発電所ではなく、「市民共同節電所」を知っていますか。市民で出資し節電所を作るという取り組みが、福井市福井駅前ガレリア元町商店街で行われています。

二〇一四年一月通りを照らす水銀灯をLEDに切りかえました。イタリア・ミラノの街並みを参考に丸いオブジェ照明とダウンライトを天井につけました。色も白色から暖色系にし、温かみのある雰囲気になりました。おしゅれに変身したうえに、節電効果はなんと七割超。

元町商店街協同組合は以前からLEDにしたいと思っていました。しかし初期投資にかかるお金がありません。そこに登場したのが『市民共同節電所』。初期投資ゼロで省エネ機器を導入できるという市民共同節電所。市民一口十五万円を出資。省エネ機器導入にかかる初期投資を肩代わりします。出資した市民は五年間分配金(元本+配当)が配られ、今年は一・五%の分配利回りを予定しています。

この活動のとは市民発電所でした。二〇〇〇年に市民出資の「市民共同発電所」がスタート。太陽光パネルを民家に取り付け、電気を電力会社に売却し、出資者に配当金を出す仕組みです。興味を持たれた方は「ふくい市民共同節電所」に問い合わせを。